Watching Carefully

取材・文／山田 涼子　撮影／江藤 太亮

BAILEYS® Kick Off Event in Kansai

@WORLD[世界]

A

C

E

D

B

F

アイルランドの風に運ばれてきた「ベイリーズ」日本をアイリッシュソウルが覆う日は近いか？

別名、エメラルド島。きらめく陽の光を浴びて輝く緑豊かなこの国を、人々は慈愛に満ちた瞳でもって、畏敬にも似た気持ちでそう呼ぶ。ケルトの文化が息づき、多くの謎を秘めた先史時代の古代遺跡がひっそりと佇む島――アイルランド。霧に煙る丘、羊たちが昼寝を決め込む草原を駆け抜ける風、夜毎パブから届く陽気な笑い声と「シュロンタ！（乾杯）」、欠かせないスタウト・ビールと、そしてアイリッシュウイスキー。

そのアイリッシュウイスキーをこよなく愛する男たちは「男女を問わずもっと多くの人に飲んでもらいたい。そして自分たちと同じように愛してほしい」と望み、プロジェクトを結成した。試行錯誤の末に完成させたのは、アイルランドの豊かな自然から生まれた新鮮なフレッシュクリームをベースに、カカオとバニラで甘く彩られ、豊潤な琥珀の香りを併せ持つリキュールだった。アイルランドが誇るフレッシュクリームとアイリッシュウイスキーの融合。最強の組み合わせだ。

彼らの願いは叶い、いまでは130カ国で販売され、世界No.1リキュールの冠をほしいままにしているこの「ベイリーズ」が、日本に祖国の風を運んできた。去る10月から関西地区でTVCMや屋外広告を始め、サンプリング活動の実施など積極的な展開をしているのでご存じの読者も多いだろう。

この日は「ベイリーズ」のエキシビジョン・イベント。この酒の香りが、アイルランドにいると信じられている妖精をも虜にしているとしたら、酒好きの男たちはもちろん、世の女性たちも確実に虜にするだろう。京都でその風を煽るべき役割を担う飲食店関係者たちが、その魅力に抗えないのは必至かもしれない。今度は彼らがあなたを虜にせんとするだろう。さぁ、この甘い香りを持つ風、そして“忘れられないおいしさ”に、あなたは抗うことができるか？

A. セミナーで「ベイリーズ」について熱弁するブランド・アンバサダーのピーター・オコナー氏。「ぼくらはマリオって呼んでるんですよ（笑）」とスタッフ。どちらかというと、ルイージ？ 失敬…。 **B.** 中2階ではネイルのエキシビジョンも。意外や意外。ネイリスト・アヤさんの手によって何人もの殿方がネイルに挑戦！ みんな仲良く「ベイリーズ」なツメに。 **C.**「ふんわりキュートな感じで『ベイリーズ』のまったりした甘さをイメージしたんやけど」と弊誌でもお馴染み「MUSE」のスタイリスト・ケイスケさんはヘアスタイルのエキシビジョンを担当。どうですか？みなさん。 **D.** ダイニングバー「Cabaret」のヒデさん（左）とお仲間のアキラさん。「まだ3杯目やし」と笑顔でストローをくわえるふたり。 **E.** バナナリキュールを加えてフローズンにした「ベイリーズドリーム」は、弊誌営業部スタッフMのお気に入りに。 **F.** 京都で「ベイリーズ」風をおこす販売元・MHD ディアジオ モエ ヘネシー社の紙屋さん（左）と山本さんは受付中。「11月からは高瀬川が『ベイリーズ』臭くなってるはずですよ（笑）」と自信満々。 **G.** こそっと目を盗んではクイッといきたいところ…なんだけど、仕事中だからガマンガマンのベイリーズガール・メグミさん。 **H.**「ガンガンいきますよ！」とアツヒロさん（左）×コズエさんは、恋人同士かと思いきやバーテンダーとお客さん。 **I.**「ズンズンズン♪」とリズム刻んで杯も進む。そしてさらに周りの人の杯をも進めるDJヤマモト氏。 **J.** ミホコさん（左）＆ヤスコさんは、「全日空ホテル」のバーテンダー。どおりで「お酒大好きです!!」って力いっぱい言うはずだ。 **K.**「リバーオリエンタル」から駆けつけたのは、マサトさん（左）とカエデさん。マサトさんは、「ベイリーズ」を使ったオリジナルカクテルでコンペに出場したとか。 **L.** 木屋町のバー「レッドライン」のオーナー・ヨシヒロさんは、お客さんのイヅミさんと一緒に。「ウーロン茶割のレシピにびっくりした」。その気持ち、解りますとも。 **M.**「ベイリーズ」を日本No.1リキュールにのし上げるべく日々奮闘する湖東彰彦氏。